

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4094900018		
法人名	医療法人 慶愛優		
事業所名	グループホーム 芦屋はまゆう		
所在地	〒807-0141 福岡県遠賀郡芦屋町山鹿1060	093-221-2777	
自己評価作成日	平成26年12月25日	評価結果確定日	平成27年01月26日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=40
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シダプル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27	093-582-0294	
訪問調査日	平成 27年01月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念の「介護は心」は文字通り、現場従業員は心ある介護サービス提供に努めるということであり、また、経営陣は介護職員が心ある介護サービス提供が余裕もってなされる職場環境の整備に努めるということである。本事業所は基準人員配置に+ を加えた人員配置を基本としており、利用者は元より、利用者家族にも満足していただける介護サービス提供を常に心がけている。また歯科医院が母体ということもあり、歯科ユニット配置等、口腔メンテナンスにも力を入れており、誤嚥性肺炎等の予防にも努めている。これらの成果により、平成23年2月の開設以来、入居者の入れ替わりは大変に少なく、健康を維持したままの生活が続けられているものと自負するものである。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「芦屋はまゆう」は、高齢者がこれまで築いてきた人間関係や地域との関わりが、継続出来るように4年前に開設したグループホームである。併設の小規模多機能ホーム、サービス付き高齢者住宅と合同で開く秋祭りには、50人を超える地域住民や家族が参加し、利用者職員は、地域の浜運動会、盆踊り、敬老会に参加し、友人や知人と出会い、楽しいひと時を過ごしている。協力医療機関の往診体制が確立し、法人内の4人の看護師が、介護職員と協力し、利用者一人ひとりの状態変化を察知し、「早期発見、早期治療」に取り組み、利用者の健康管理は、24時間充実している。また、経営母体が歯科医院であるので、口腔ケアには特に注意し、感染症やインフルエンザの予防を行い、健康的で、明るいグループホーム「芦屋はまゆう」である。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25.26.27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20.40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38.39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32.33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「介護は心」の理念に基づき入居者様を常に自分の親・身内と考え悔いなく入居者生活を送って頂けるよう日夜努力しています	「介護は心」を理念の柱として掲げ、職員一人ひとりが理念の意義を理解している。日頃から、利用者に対する言葉遣いや対応について話し、ホームは生活の場であるので、利用者からの声を聴く事を心掛け、職員が先導するのではなく、その時その時の利用者の心情に寄り添い、楽しく、安心した暮らしの支援に取り組んでいる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	運営推進会議等を通じて行事のお知らせ等をし、地域の方のご来訪又は、町内への行事へお連れし、地域の方との交流を図っています。また地域自治会にも属し、今年度は当法人役員が組長も務める等、地域密着を実践しています。	町内会に加入し、地域の方に支えられ、利用者、職員は、文化祭や漁港の浜運動会等、地域行事に参加し、併設事業所と合同の秋祭りや敬老会、そめん流しに、地域の方や家族が大勢参加する等、活発な交流がある。地域との防災協定を締結し、法人役員が地区の組長を務める等、地域との信頼関係を築いている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に開放された施設であるべく、いつ何時でも入居者以外の方の来訪を受け入れ介護相談を行っている		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の生活状態を写真にし会議参加者に見ていただきます。家族会からの意見等を参考にし、これからの施設サービスへの参考にさせていただきます。	会議は2ヶ月毎に開催し、家族会代表、民生委員、区長、行政職員の参加を得ている。ホームの運営状況や取り組みを報告し、会議の中でケース検討会を行い、参加者の意見を求めている。地域交流についても議題に挙げ、区長がホーム行事を有線放送で広報して下さる等、会議を通して協力を得ている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	昔からの地域の祭事等を入居者の方に思い出していただけるよう、市町村の観光課と連絡を取り、ご当地音頭等CDを取り寄せ、入居者の方に楽しんでいただけるよう取り組んでいます(1例：芦屋音頭)また、運営推進会議には役場福祉課職員、自治会区長、民生委員も参加されており、情報開示に努めると共に連携を図っております。	管理者は、行政窓口、ホームの現状や困難事例等を相談し、情報交換を行い、連携を図っている。管理者は、回想法を取り入れ、行政の協力を得て、利用者、地域に伝わる伝統行事を思い出してもらったり、ご当地音頭を楽しんでもらう取り組みを行っている。また、運営推進会議に行政職員が出席し、協力関係を築いている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	1名、夜間等のベットよりの離床による転倒を防ぐ為ベットセンサー・鈴設置により事故予防をしています。日中はも守り重視による事故予防に力を入れています。	集団指導や研修会の中で、身体拘束について学ぶ機会がある。また、日常生活の中で、その都度職員間で話し合いながら、職員全員が身体拘束廃止についての理解を深めている。身体拘束廃止マニュアルに基づいて、具体的な禁止行為について再度確認し、職員一人ひとりが自覚し、身体拘束をしない介護の実践に取り組んでいる。	
		管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング等により高齢者への虐待を広い意味で理解し学習を行っています。入居者外出後等ご本人の変化や身体観察を行います		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各自研修にて権利擁護に関する制度、理解を行っています。日常では利用者本人自らの意見を表明するよう支援すること、表明された石の実現を権利として擁護していく様心掛けています	自己判断が困難になり始めた利用者が不利益を被らないために、早めに家族や関係者と相談し、日常生活自立支援事業や成年後見制度の活用に繋がられるよう取り組んでいる。各種研修に参加した職員は、制度の重要性を理解し、利用者や家族から相談があれば、一緒に取り組めるように努力している。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、利用契約書及び重要事項説明書を行い疑問点などその場にてご理解していただけるよう対応させていただいています。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議(2ヶ月に1回)及び家族会(年1回)を開催しています	日常の暮らしの中で、利用者の思いを汲み取り、出来るだけ反映している。また、運営推進会議や家族会(年1回)、又は電話等で、家族の意見や要望、心配な事等を聴き取り、ホーム運営や利用者の介護計画に反映出来るように取り組んでいる。	
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングに代表、管理者が参加し職員よりの質問、提案を聞くシステムを取り、必要に応じて個別での面談を行っています。	毎月、職員全員参加の会議を定期的開催している。会議には代表も参加し、現場の職員の声を直接聴く大切な機会としている。また、毎日の申し送り時に、職員間で気付きや意見を出し合い、共有して解決に向けて取り組んでいる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	母体が医療法人である以上、社会福祉法人に比べると給与水準はどうしても落ちる為、当施設では人員配置を基準ギリギリで配当するのではなく、できる限り多く配置している		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	当施設スタッフも10代の男性から60代の女性まで差別なく雇用できていると思います。又委員会を設立し、職員は必ず各委員会に所属し施設運営について一人一人が当事者であることを自覚させ、又それぞれのアイデア等が運営に反映されている	職員の募集は、人柄や介護に対する考えを重視し、年齢や性別、資格等の制限はしていない。採用後は、職員の介護技術と知識の向上を図るため、外部研修に派遣している。また、職員の心のゆとりが優しい介護に繋がるとの考えから、待遇面、配置面において改善を重ね、働きやすい職場環境を目指している。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	啓発活動として年間を通して職員自ら希望する研修の受講を行っている	職員は、利用者の人権を尊重し、「介護は心」という理念を常に意識し、心を込めて支援している。ミーティング時に、理念の中身について説明し、職員一人ひとりの目標を決めて、1年間取り組んでいる。利用者への言葉遣い、態度、生活支援の取り組み方等については、気付いた時にその都度話し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県主催の年間研修への希望参加と事業者からの指示による受講を行っています。ミーティング内で各ケースのケア検討等行っています		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会への参加、地域事業所の連絡会への参加を行い、交流を行っています		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所相談時には、ご本人ご家族へ来訪して頂き、実際にグループホームの生活見学、体験入所を行っています		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学と共に費用面、施設のサービス特徴等詳しく説明させていただき、現在お困りのこと等時間をかけゆっくりにお話しさせていただきます		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	小規模多機能型居宅介護(基本在宅介護)や福祉用具の紹介、説明、他種の施設紹介を行います		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	居室内の清掃、食後の食器洗い等の家事活動を通じてご本人の能力維持を目的に役割をやって頂きます。その際必ず感謝の言葉贈りを行います		
21		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年末年始等自宅で外泊される場合、日頃のご本人の状態、ケア方法に対応できるよう支援させていただきます		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣より入居者の方が多く、町内での行事参加や身近な場所への外出等計画、実施しています	地域の利用者が多い事から、町内の行事や外出時に、友人、知人と出会うことも多く、その機会を得てホームに訪ねて来てもらうこともある。利用者の希望を聴いての外出支援等、利用者が長年築いてきた人や場との関係が、ホーム入居後も継続出来るように、家族と協力しながら支援している。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の性格や障害を十分に把握し、生活の中心となるリビングでの活動が円滑に行えるよう、座席の決定や職員が仲介し孤立のないよう、時間が過ごせるよう支援しています		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	移設による契約終了の場合は動向把握に努めています。 死亡による終了の場合、盆供養に伺う等し、ご家族とのコミュニケーションを行っています		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各担当職員を決め、ご本人が気楽に話が出る雰囲気作りに努めています。日常生活からの表情の変化や仕草、反応を敏感に読み取り、意志表示の出来ない方にも常に把握に努めています。	職員は利用者信頼関係を築き、何でも話せる関係の中で、思いや意向を聞き取り、職員全員で情報を共有して、介護サービスに反映している。また、意思の疎通が困難な利用者も、声掛けに応じて笑顔になることもあり、職員自身の気づく力を養いながら、利用者寄り添うケアに努めている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前のアセスメント 会話の中からの聞き取りに努めています。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務前に医療連絡ノートの確認、朝夕の申し送りの徹底に努めています		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者による月1のモニタリング ミーティング時のケア介護にご家族来訪時の状況報告により3ヶ月ごとの介護計画の見直しも行っていきます	利用者や家族の意見や要望を聞き取り、毎月のモニタリングや担当者会議の中で、職員間で話し合い、利用者本位の介護計画を3ヶ月毎に作成している。また、利用者の急変や状態変化に合わせ、家族や主治医と話し合い、介護計画の見直しをその都度行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、気づきノートにより本人の言葉、表情、受診結果など記載し、全スタッフでの情報共有プランに沿った記録を行っています。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の都合により受診付き添いを施設看護師にて行っています		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内での体力作り教室への参加、付き添い等行っています。		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の意向に沿って入居前よりの主治医に継続受診(受診時、情報提供を行う。)ホームドクター月2の訪問診療(内科、その他科)家族又は施設看護師による受付、付き添い	今年度の春から、協力医療機関による月2回の往診体制がスタートし、現在7名の利用者が往診を受けている。2名の方は、家族対応で、かかりつけ医を受診し、医療情報の共有を図っている。提携医と看護師、介護職員が協力し、利用者の些細な状態変化も見逃さず、早期発見、治療に繋げ、利用者が安心して医療が受けられる体制を築いている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	担当看護師勤務日、朝礼時の報告 看護師不在時は同一法人内の別の看護師へ報告、指示を仰ぐ。定期受診時、当日までのバイタル表のコピー等を準備する		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中、様子観察(食事、排泄状況等)退院決定後病院での退院カンファレンス開催、ご本人の状況と生活面での留意点等把握し安心して退院出来るよう努める		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重大な疾患発病の場合、本人と家族の意向確認と事業所での対応限度等の説明を行った上で最大限のケアに努める	利用者の重度化に合わせ、家族や医療機関との連携を密に図り、方針を確認し、介護計画の見直しを行う体制を整えている。また、契約時に、ホームで出来ること、出来ないことを説明し理解を得ている。現在まで、看取りの経験はないが、食事が摂れなくなるギリギリまで支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	前年度、急変時の救急対応の研修実施済み 近日 再度研修予定		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災・緊急連絡・消火訓練(夜間訓練)を行っています	3月と9月の年2回、避難訓練を実施し、うち1回は消防署の参加も得ている。非常災害時に備えて、ソーラー発電の導入や非常食、飲料水の備蓄も行っている。また、地域と相互防災協定を結び、協力体制を築いている。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃より職員一人々が言葉使いやプライバシーについて細心の注意を払っています	職員は利用者を人生の大先輩として敬い、親しい間柄の中にも礼節を重んじ、利用者のプライドや羞恥心に配慮したケアに取り組んでいる。申し送りの時には名前を出さずにイニシャルで話す等、プライバシーにも配慮している。利用者の個人記録の保管や、職員の守秘義務については、管理者が常に説明し周知が図られている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	2名ずつ担当者配置によりなじみの中での傾聴、導きができるよう心掛け、常に待つことを指導しています		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に体調、精神状態を把握した上で支援を行い、自己決定していただけるよう支援させていただいています		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問美容来訪 起床時の身支度介助や衣類の選択等可能な範囲で行っていただいています		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配茶の準備、テーブル拭きその他家事に関することを能力に応じて毎日行っていたり、皆さん楽しく行っている様子です	法人内厨房で作った料理を配食し、ホームで温めて配膳している。利用者の残存能力に応じて、お茶の用意やテーブル拭き等手伝ってもらい、職員の見守りの中で食事をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事を含め1日基本9回の水分摂取を行い、1日の必要量を提供 ご本人が摂取しやすい食器を用意 体重の増減や体調に合わせて、量や形態調整を行います		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期定期に歯科医、歯科衛生士による口腔ケアの実施 毎食後の口腔ケアの徹底 個々への促し、用具準備、介助を行っています		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間排泄チェック表の利用による要介助者の排泄パターンの把握、促し誘導	職員は、利用者の排泄パターンを把握し、早めの声掛けや誘導で、トイレでの排泄の支援に取り組んでいる。夜間も出来るだけトイレ誘導を行い、オムツ使用の軽減に努めている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日1回牛乳提供(温度調整) 1日2回園内歩行実施 毎日、ラジオ体操実施		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	みかんの皮、よもぎ等手作りの入浴剤を使用 浴室の細やかな温度調整等により、常に気持ちよく入浴していただけるよう工夫を行っています	入浴は2、3日に1回を基本としているが、利用者の希望で自由に変更できる体制を整えている。みかんの皮やよもぎ等で手作りの入浴剤を作り、職員は利用者と一緒に話をしながら、楽しい入浴の支援に取り組んでいる。また、入浴拒否の利用者については、家族に来てもらう等協力を得たり、寒がりの方には室温に配慮する等している。足浴も実施し利用者に好評である。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は一応決まっているが、ご本人の眠気等に合わせ対応しています 夜間の睡眠状況を把握し、日中の様子観察、必要に応じて声かけを行います 就寝中の照明調整を行っています		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに最新の薬情報を綴り、誰でも見られるようになっています 薬の変更があった際は、医療ノートでの情報提供を行っています 服用時はダブルチェックを徹底しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーション活動メニューに創作活動、運動、外出等を組み、個々に合った活動を工夫しています		
51	21	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季の変化を感じられるよう、ドライブを兼ねて花見見物や屋外での食事、花火大会等行っています	天気の良い日は、広い敷地内の散歩や日向ぼっこ、外でのラジオ体操を行い、季節を五感で感じてもらっている。浜木綿、コスモス等の花見ドライブやイルミネーション見物等、利用者の気分転換に繋がる外出の支援に取り組んでいる。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在では現金を所持する入居者はいらっしゃらないので対応しておりません		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご主人のお誕生日に電話にて祝う等支援を行っています 絵手紙を作成し、ご家族への手紙とする		
54	22	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	レクリエーションの一環として、季節ごとの貼り絵の作成、外出中の写真を壁に貼り付ける等楽しんでいただいています	室内には手作りのしめ縄や絵手紙、利用者、職員による季節毎の貼り絵の作品、利用者の笑顔の写真等を掲示し、生活感のある温かな雰囲気である。回廊式の廊下に囲まれた中庭に植えられたしだれ梅の蕾が日に日に膨らんでいくのを見るのが、利用者の楽しみとなっている。天窓からの陽射しや音、温度や湿度、換気に配慮し、気持ちよく過ごす事の出来る共用空間である。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアー(地域交流室)にソファを設置し入居者がいつでもくつろげる空間を用意しています		
56	23	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、自宅で使用していた家具やご家族の写真やご主人の遺影をもってきていただき、他方に気兼ねなく手を合わせたりお部屋作りが出来るようです	利用者が、自宅で使っていた馴染みの筆筒やソファ、鏡や家族の写真、生活用品を持ち込み、自宅と違和感のない雰囲気にして、利用者が安心して過ごせるように配慮している。本が好きな方は本をたくさん持って来られたり、自分の作品を飾る等、その人らしい居室となっている。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各自の部屋が確認しやすいよう居室入口に写真を貼る トイレの場所が分かりやすいよう目印を付けるなど工夫しています		